

下田市議会議長
小泉 孝敬



令和となり人々が美しく心を寄せ合う新年を迎えるにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、清く澄みきった風はやわらかくそよぐ輝かしい新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また日頃より、市政ならびに議会に対しご協力とご指導を賜り重ねて御礼申し上げます。昨年は5月より平成から令和が始まり、日本全国がお祝いムードのなか新しい時代への期待が高まり、下田市議会も6人の新人議員を迎え、新たに市の活性化に向けての議論がスタートしました。

現在、環境、人口減等さまざまな問題が提起されています。温暖化による世界的気候変動のため災害が多発しております。昨年秋には台風第15号、第19号により東日本を中心に甚大な被害を受けました。下田市においても土砂災害、倒木、停電等により多くの方が大変な被害を受けました。被害を受けた皆様にはお見舞い申し上げると同時に、今後の対策については日頃のチェック体制の強化とともに情報伝達のあり方、ハザードマップの充実、訓練の強化等、議会といたしましても問題を提起し、防災、減災につながりますよう議論してまいりたいと思っております。温暖化防止のため自然エネルギーの有効活用が重要視されておりますが、現在、下田市においても太陽光、洋上風力発電のあり方等、今後の課題としてその方向性について議会として議論すべきと考えております。その対策につきましては行政とともに検討していかなければならないと思っております。

昨年末、市議会の総務文教委員会は、徳島県三好市の休廃校8校の利活用の成果及び香川県まんのう町の新図書館の使用状況等を視察しました。産業厚生委員会は、神戸市の国際環境認証を得た須磨海水浴場の健全化促進の運営状況、和歌山県白浜町の都市公園条例にもとづく美化保全に努めている白良浜の運営について、また、リゾート地であることなど、当市と似た環境にある白浜町で取り組まれている、仕事と休暇を組み合わせたワーケーションの状況について視察を行いました。滋賀県湖南市においては、地産地消の太陽光、パイオマス等自然エネルギー地域電力会社運営を視察しました。中学校跡地活用、図書館建設、海水浴場のあり方、自然エネ

新年のご挨拶



ルギー、ワーケーション、それぞれ今後の下田市にとっての方向性や、課題の解決を検討するに当たり大変参考になった視察でありました。

本年の議会活動としまして、伊豆縦貫自動車道に関しましては早期完成を目指し、工事の発生土の活用につきましても、行政とともに国に対し要望活動を積極的に行なってまいりたいと思っております。森林整備、里山育成及びゴミ問題、焼却場問題にも積極的に関与してまいりたいと思っております。世界一の海づくりに関しましては、地元の皆様のご意見を伺いながら海岸全体の美化、調和を考え、ジオパーク推進の立場からも維持管理について提言をしてまいりたいと思っております。強い要望のある放課後児童クラブに関しては、残る2校稲梓、白浜地区においても早期に実施されるよう取り組んでまいります。ワーケーションに関しましては、視察で学んだ点を参考に、行政とともに議会も支援してまいりたいと思っております。新庁舎、統合中学校の建設に関しましては、本年事業が実施されますが、順調に進捗しますよう見守りたいと思っております。今後の下田市の活性化まちづくりにおける最大の課題は、庁舎及び中学校跡地の有効活用にあると思われま。議会としましても市民の皆様のご意見を伺いながら、積極的に関与してまいりたいと思っております。

日本中が1つの歓喜の輪になった昨年のラクビーワールドカップから、今年は東京オリンピック・パラリンピックへとその輪が移行すると思われま。観光地下田としましても、サーフィンやビーチバレー等の応援体制を整え、多くの人達の誘客に向けて官民が連携し、また今後のまちづくりのために行政と議会が両輪をなし行動すべきと思います。

本年が下田市にとって飛躍の年になるよう市議会も一丸となって行動してまいりますので、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、市民の皆様にとって幸多き年でありますことをご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

新年を寿ぎ、謹んでご祝詞を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、お健やかに新たな年をお迎えになられたこととご拝察申し上げます。

私、市長に就任してから4回目の年を迎えました。就任以来、下田再興に向けた基本方針として「人口減対策」「観光振興を主体とする経済活性化」「防災対策」の三本の柱を掲げてまいりました。既存事業に加えて、新しい視点で事業展開に取り組み、各分野で将来への動きが芽生え始めるなど、市政運営全般にわたり、順調に進捗いたしました。これも偏に市民の皆様からの温かいご理解、ご支援とご鞭撻の賜であると、深く感謝しております。

人口減対策に関しては、昨年4月に下田市空き家バンク事業を開始しました。人口減少・過疎化により、空き家となっている住居、店舗等の有効活用や、地域活性化のため、移住希望者に対して空き家の提供をしています。また、10月には、ワーケーション2019in伊豆を開催しました。ワーケーションとは、インターネット等を活用することにより、いつもの仕事を犠牲にせず、地方でしかできない体験を実現する、新しい働き方・休み方・ライフスタイルです。首都圏の方を対象に、下田で過ごす新しいライフスタイルを提案することで、交流人口の増加、遊休施設の活用、来訪者とのイノベーションによる経済活性化が期待できます。今後も、定期的な会合、イベントを開催し、ワーケーションによる交流を深めてまいります。

観光振興を主体とする経済活性化に関しては、昨年4月から6月までの期間において静岡デスティネーションキャンペーンが行われ、市内観光関係団体等と連携し、黒船祭やあじさい祭をはじめ、蓮台寺しだれ桃と歴史文化財めぐりや竹あかりイベント等を実施しました。第80回を迎えた黒船祭においては、2夜連続の海上花火大会を開催しました。あじさい祭においては、下田公園入口から開国広場までゴルフカートでの送迎サービスを実施し、訪れた方から大変ご好評をいただきました。今年の4月から6月には、静岡デスティネーションキャンペーンアフターキャンペーンが行われます。引き続き観光客の誘致に最大限の努力をしてまいります。平成30年度の宿泊客数は、それまでは微増が続いておりましたが、10年ぶりに100万人を越えました。令和元年度においても、増加が期待されるところであります。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック関連としまして、昨年9月にホストタウンとしてUSAサーフィンとの事前キャンプ等に関する協定書を締結しました。米国サーフィンチームの強化合宿等を受け入れ、米国との文化交流を実施し、国内外へ本市の魅力をPRするとともに、将来のレガシーの構築を目指してまいります。

防災対策に関しては、その発生がひっ迫の度合いを高める地震・津波災害に対し、市民の命を守るため、敷根避難路、春日山遊歩道、小山田避難路などの避難路・避難場所を整備しました。また、伝わりやすい広報を目指し、デジタル同報

下田市長
福井 祐輔



系防災行政無線の整備を進めています。デジタル化によって録音機能を備えた戸別受信機を整備します。屋外子局には、高性能スピーカーを導入し、より明瞭な音声となります。市民の命と財産を守り、安全安心のまちとするため、ハード・ソフト両面の危機管理能力の向上を図り、盤石な防災体制の確立を目指します。

新庁舎建設に関しては、昨年8月には土地収用法に基づく事業認定を受け、11月に用地売買契約を締結しました。令和3年7月の竣工を目指し、庁舎建設事業を実施してまいります。

中学校再編に関しては、令和4年4月からの開校を目指し、新中学校の理念をはじめ、校章、校歌、部活動等具体的な検討を進め、魅力的な教育環境の創出に努めてまいります。また、昨年8月には、子供たちの教育環境を改善するため、市内7小学校にエアコンを導入しております。多様化するニーズや学習環境に対応するとともに、安全安心の教育環境を整備してまいります。

伊豆縦貫自動車道に関しては、昨年1月に天城北道路開通式典、12月に道の駅伊豆月ヶ瀬開駅式典が行われました。全線開通に向けて、引き続き要望活動や関係機関との連携及び事業協力等に積極的に取り組んでまいります。また、伊豆縦貫自動車道の整備と並行して、防災対策や渋滞対策への対応を図るために、県道河津下田線などの伊豆半島の筋骨となる幹線道路の整備促進を図ってまいります。

本年は、市政運営を総合的、計画的に進めるための指針として、また、最上位の行政計画として令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とする「第5次下田市総合計画」の策定を進めてまいります。本市が再興に向けて進むべき明確な将来都市像を具現化するため、虚心坦懐、公論傾聴、先見洞察、熟慮断行を座右の銘とし、全身全霊を傾注してまいります。市民の皆様の大なるご協力を切にお願いいたします。

結びに、市民の皆様にとって、本年も幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。